

木造住宅

耐震診断報告書作成プログラム 2012年改修版

日本建築防災協会の一般診断による方法に準拠

Tree 2

Ver1.21

はじめに

このソフトは、日本建築防災協会の一般診断による木造住宅の耐震診断2012改訂版に準拠した木造住宅の耐震強度計算ソフト（シェアウェア）です。

主な特徴は、

1. JWWに近い操作方法で平面入力を行うとリアルタイムで評点を計算します。
2. 日本建築防災協会の、「一般診断による木造住宅の耐震診断プログラム」（以下WEE）形式でデータを入出力可能です。
2012改訂版 Wee2012 形式（Ver1.2.0対応）
3. 精算法による必要耐力求め方に対応
4. 重心、剛心から壁配置低減係数を計算できます。
5. 大きさの入力は、モジュール単位ではなくミリ単位で入力可能
建物の形状の入力は、四角や、直角三角形に分解して入力します
6. N値計算と、同等の計算を行いそれぞれの柱に必要な金物を算定します
7. 降雪時対応（積雪深さを設定することにより、通常時と降雪時を同時計算し評点を算定）
8. 現状診断と複数の補強案を検討可能

ソフトウェアの入手先

Vector Twee2 <http://www.vector.co.jp/soft/winnt/business/se507558.html>

旧バージョン

Vector Twee <http://www.vector.co.jp/soft/winnt/business/se448382.html>

インストール方法

TweeSetupファイルを実行してインストールしてください

通常のインストールフォルダーは、“C:\¥TomService¥Twee¥” になります

設定や、一般項目のデータなどはこのディレクトリー内にファイルとして保存されます

圧縮ファイルの中身

Twee2.exe	実行ファイル本体
Twee2.chm	ヘルプファイル
TWEE2操作マニュアル.pdf	このドキュメント
一般A.tw2	サンプルファイル
一般B.tw2	
一般C.tw2	
sample.tw2	

その後、ユーザー認証を行ってください。

PC 1 台に付1ライセンス必要で1台ずつユーザー認証を行う必要があります

ユーザー認証を行わないと保存の操作ができなくなっています。

アンインストール方法

プログラムの追加と削除からTweeを削除してください

- 目 次 -

1. 表示画面説明	-P2-
2. 操作説明	
2.1 プチクロックメニュー	-P4-
2.2 キー操作	-P5-
3. データ入力	
3.1 基本入力フロー	-P8-
3.2 現状診断入力	-P9-
3.3 補強設計入力	-P10-
4. 動作モード説明	
4.1 AUTOモード	-P12-
4.2 通り芯モード	-P13-
4.3 面積入力モード	-P14-
4.4 耐力壁入力モード	-P15-
壁設定ダイアログBOX詳細	-P17-
プチクロックメニュー編集機能（耐力壁入力モード時）	-P18-
開口部等表示記号一覧	-P19-
4.5 通し柱入力モード	-P20-
4.6 削除モード	-P21-
4.7 移動モード	-P22-
4.8 選択モード	-P23-
5. 他のソフトとの連携	
5.1 JWW図面出力	-P26-
5.2 WEEファイル出力	-P30-
6. コマンドリファレンス	
6.1 新規	-P32-
6.2 ファイルを開く	-P32-
6.3 ファイルを保存	-P32-
6.4 印刷	-P33-
6.5.1 一般項目入力(建物名称等)	-P34-
6.5.2 一般項目入力(建物仕様等)	-P35-
6.5.3 一般項目入力(計算方法等その他設定)	-P36-
6.6 劣化入力	-P37-
6.7 コメント入力	-P38-
6.8 90度回転	-P40-
6.9 互換モード切替	-P40-
6.10 ユーザー承認	-P40-
6.11 メニューバー「ファイル」	-P41-
6.12 メニューバー「編集」	-P41-
6.13 メニューバー「ヘルプ」	-P41-
6.14 メニューバー「動作設定」	-P42-

1

2

3

4

5

6

1：表示画面説明

1

2

3

4

5

6

1. 表示画面説明

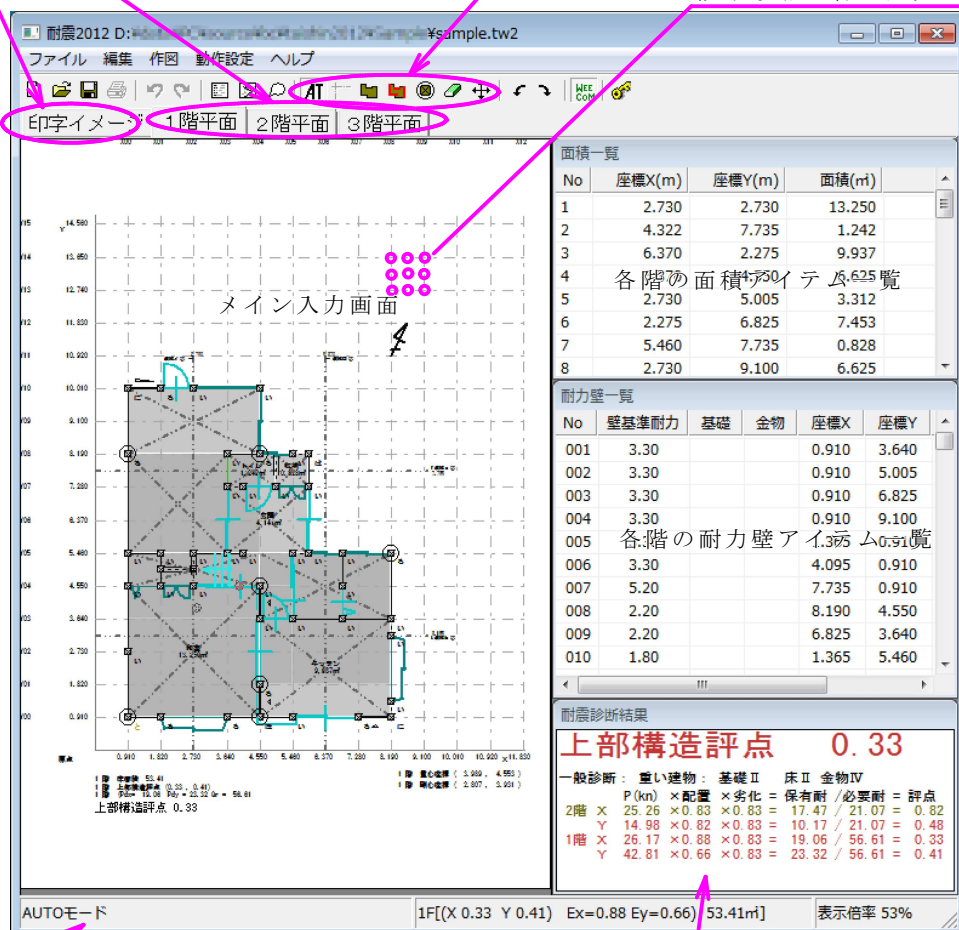
Twee2を起動すると、次の画面が現れます

印刷イメージタブ：計算結果レポートを表示する画面に切り替えます

平面切り替えタブ：それぞれの階の平面に切り替えます

動作モード切替

読み取点：右クリックで交点などが読み取れます



ステータスバー：

使用説明等コメントが表示されます

建物の評点がリアルタイムで表示されます

青：1.0以上

カラー表示 黄：0.7-1.0

赤：0.7以下

メイン画面：建物形状や、耐力壁の入力を行います。（報告書第4面と同じレイアウトです）

基本的な操作方法は、できるだけJWWに近づけております

両ボタンドラッグ操作による画面の拡大操作がコマンドの途中でも可能

右ボタンによるポイント読み取り

線種変更と同等の操作で壁強さ倍率をコピー

プッシュメニューによる操作

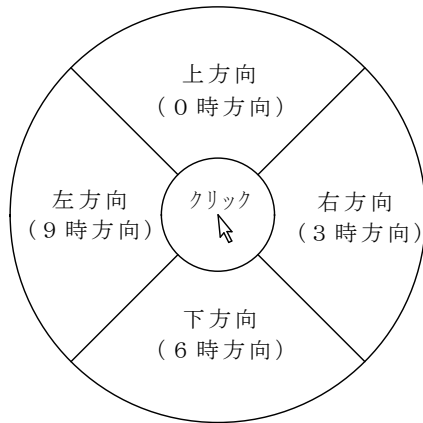
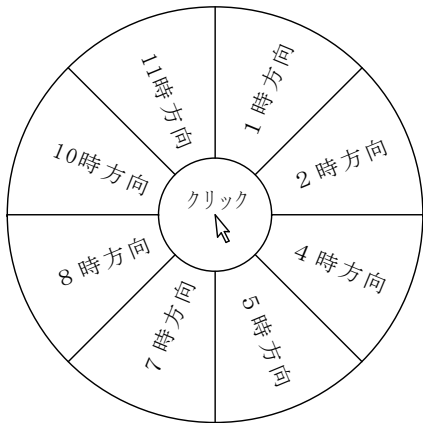
2：操作説明

(マウス・キーボード操作)

2.1 プチクロックメニュー

Jwwのクロックメニューの機能縮小版のような物で、方向は、8方向、AM、PMの区別もありません

それぞれの方向は、以下のように呼ぶようにします。また、連続する2つのエリアを同じメニューに割り当てて以下のような場合もあります



読み取り点について

読み取り点とは、以下の条件の点で、

基本的にマウスの右ボタンクリックで座標を読み取ることが可能です

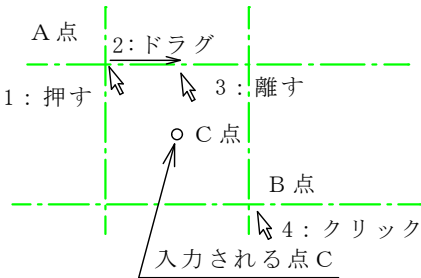
1. 通り芯アイテムと、通り芯アイテムの交点
2. 通り芯アイテムと面積アイテムの辺の交点
3. それぞれの面積アイテムの頂点
4. 耐力壁アイテムの両端の点

(※耐力壁どうしの交点は、読み取りません)

それ以外に、マウスの右ボタンのドラッグ操作により以下のような点も読み取ることが可能です

2点間中央選択 (中間点)

右ボタン右方向ドラッグ

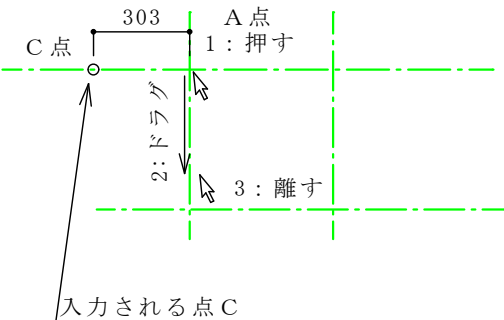


A点、B点を指定し、その中央の点Cを入力する機能

1. Rボタンを読み取り点 (A点) 上で押す
2. 押したまま3時方向にドラッグ
3. "中間点" と表示されたらRボタンを離す
4. B点をRボタンでクリック

オフセット

右ボタン下方向ドラッグ



A点からの指定した距離離れた点を入力する機能

1. Rボタンを読み取り点 (A点) 上で押す
2. 押したまま6時方向にドラッグ
3. "オフセット" と表示されたらRボタンを離す
4. オフセット入力ダイアログが現れるので、
A点からの距離を入力する



例: -303, 0
X軸方向に -303mm、
Y軸方向に 0mm の点

2.2 キーボード操作

メイン入力画面での基本的なキーボードの操作方法

表示倍率変更	
[Page Up]	10% 拡大
[Page Down]	10% 縮小
[Home]	全画面表示（全体が見えるように縮小表示）
表示位置変更	
[↑]	拡大表示時 現状より上の部分が見えるように表示場所を変更
[↓]	拡大表示時 現状より下の部分が見えるように表示場所を変更
[→]	拡大表示時 現状より右の部分が見えるように表示場所を変更
[←]	拡大表示時 現状より左の部分が見えるように表示場所を変更

アイテム移動 （入力中に記入スペースが足りなくなった場合や印刷位置の調整に使用できます）	
[↑]+[Shift]	全てのアイテムを0.5モジュール上に移動
[↓]+[Shift]	全てのアイテムを0.5モジュール下に移動
[→]+[Shift]	全てのアイテムを0.5モジュール右に移動
[←]+[Shift]	全てのアイテムを0.5モジュール左に移動

診断パターンの変更 （診断ボタンを変更前に計算方法等を設定してから行ってください）	
[F5]	診断パターンを「現状診断」に変更 ※補強設計は現状診断を先に入力してから行ってください
[F6]	診断パターンを「補強設計1」に変更
[F7]	診断パターンを「補強設計2」に変更
[F8]	診断パターンを「補強設計3」に変更

診断パターンのコピー （補強設計中に別の補強パターンをコピーしてアレンジしたり、診断時の状態に戻す事が出来ます）	
[F5]+[Shift]	現在の診断パターンに「現状診断」の状態をコピーする
[F6]+[Shift]	現在の診断パターンに「補強設計1」の状態をコピーする
[F7]+[Shift]	現在の診断パターンに「補強設計2」の状態をコピーする
[F8]+[Shift]	現在の診断パターンに「補強設計3」の状態をコピーする

1
2
3
4
5
6

3：データ入力

1

2

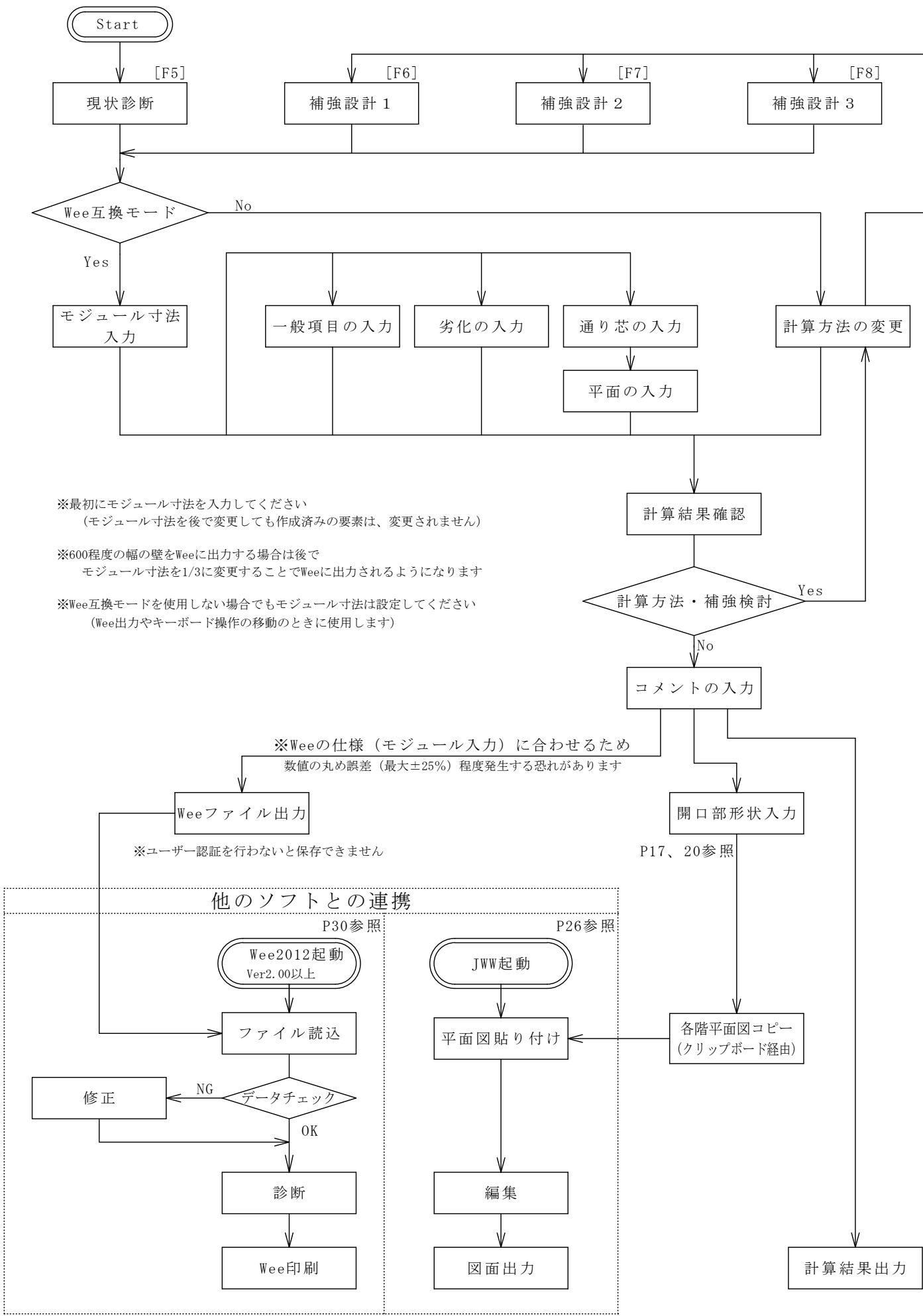
3

4

5

6

3.1 基本入力フロー



3.2 現状診断入力

3.2.1 入力の簡単なWee互換モードについての解説

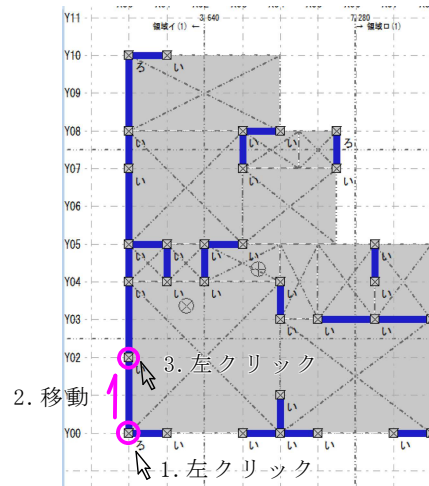
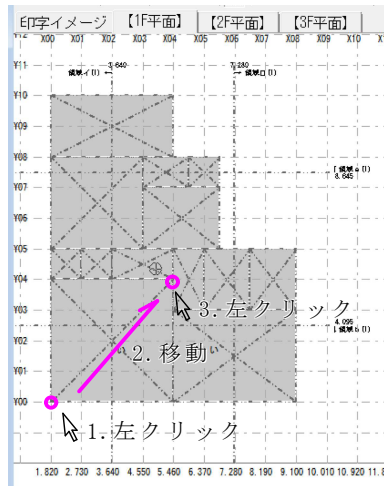
Twee2を起動すると 初期設定 910mmモジュールで通り芯が表示されます

モジュール寸法を変更したければ「一般項目設定」->「建物仕様等」のタブを開き変更してください 6.5.2参照

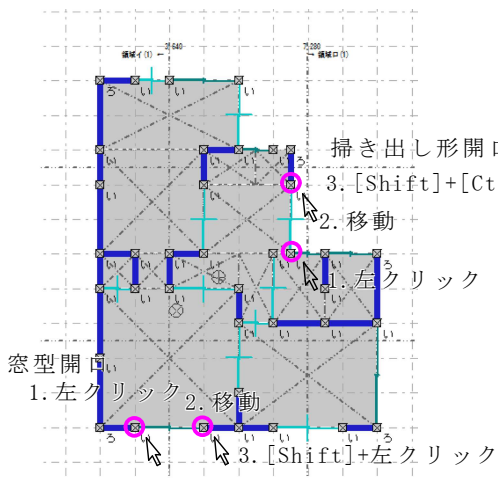
建物仕様等のページでは まず建物仕様や基礎仕様など計算に影響の有る項目を設定します

基本的な図面の入力手順は

まず、間取りを入力します 通り芯の交点とその中間点が読み取点に成るので右クリックで指定してください



それぞれの軸に平行でないものは、面積成分に成るので格部屋の対角の位置を右クリックで入力
軸に平行なものは壁になるので壁の両端を右クリックで入力します (最初は、不明壁になります)



開口壁の入力

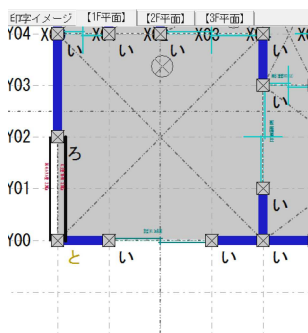
窓型開口

終点をクリックするときに
[Shift]キーを同時に押すと
窓型の開口として入力されます

掃き出し開口

終点をクリックするときに
[Shift] + [Ctrl]キーを同時に押すと
掃き出し開口として入力されます

壁の強さを設定します



設定したい壁を左クリックで「壁設定」ダイアログが現れるので詳細を設定します
設定後の壁を左7時方向ドラッグで属性を取得し左5時方向ドラッグでコピーできます

同じ強さの壁をコピーして設定してください

全ての壁の強さを設定し、劣化事項を入力すれば診断完了

あとは、評点に関係のないコメント等の入力を行い

印刷イメージのタブで印刷すれば耐震診断は完了です

モジュール以外は、いつ変更してもあまり影響がありません

自由な順番で入力してください

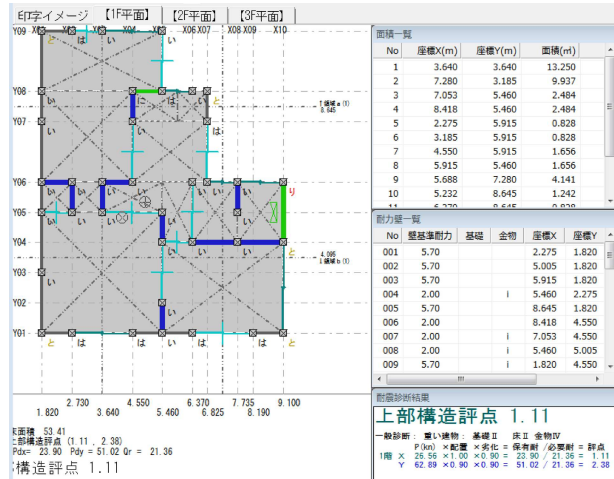
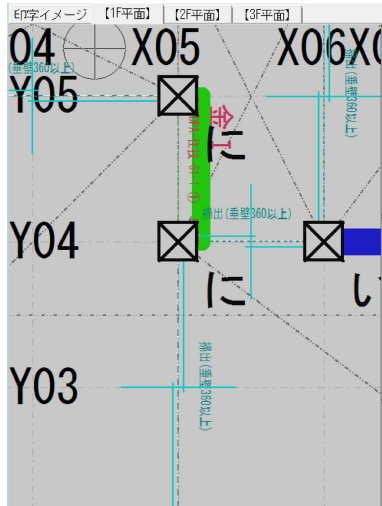
3.3 補強設計入力

現状診断入力後、補強設計を行う場合

計算方法その他設定から 診断パターンを補強設計 1 にし、計算方法その他を設定します

劣化事項などを設定し

メイン入力画面に戻ると、現状診断の状態がコピーされているので、壁等補強箇所を設定
リアルタイムで重心剛芯・評点が計算されます。バランスを確認しながら補強設計が行えます



補強設計時は、地盤と地形のコメントは入力できません（現状診断時からの変化は無いでしょうから）
基礎形状と総合コメントは、現状診断とは別に入力可能です

また、別のパターンの設計を行いたい場合は

計算方法その他設定で診断パターンを補強設計 2，3 に設定し計算方法などを設定し補強設計 1 と同様に入力を行うか

[F7]で設計パターンを補強設計 2 切り替え、
[Shift]+[F6]で、補強設計1の状態をコピーして編集する事も可能です

いつでも診断パタンの変更が可能なので、バランスの良いプランなどの検討にご使用ください

診断パターンの変更 (診断パタンを変更前に計算方法等を設定してから行ってください)	
[F5]	診断パターンを「現状診断」に変更 ※補強設計は現状診断を先に入力してから行ってください
[F6]	診断パターンを「補強設計 1」に変更
[F7]	診断パターンを「補強設計 2」に変更
[F8]	診断パターンを「補強設計 3」に変更

診断パターンのコピー (補強設計中に別の補強パターンをコピーしてアレンジしたり、診断時の状態に戻す事が出来ます)	
[F5]+[Shift]	現在の診断パターンに「現状診断」の状態をコピーする
[F6]+[Shift]	現在の診断パターンに「補強設計 1」の状態をコピーする
[F7]+[Shift]	現在の診断パターンに「補強設計 2」の状態をコピーする
[F8]+[Shift]	現在の診断パターンに「補強設計 3」の状態をコピーする

4：動作モード説明

1

2

3

4

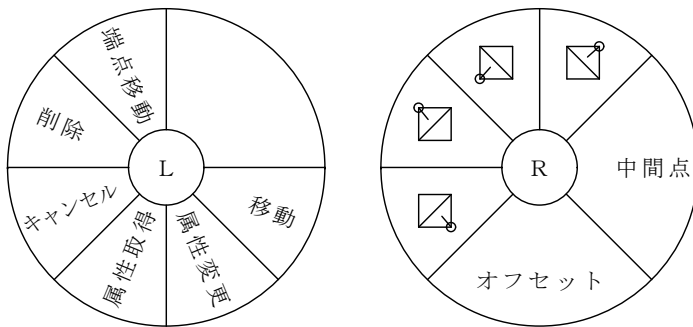
5

6

4.1 AUTOモード



このモードで使用可能なプチクロックメニュー



機能説明

通り芯、面積、耐力壁、通し柱記号などをコマンド切り替え無で入力できます。

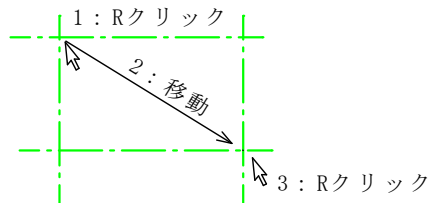
1. 通り芯入力

通り芯の上（読み取り点以外の場所）でクリックすることにより、通り芯入力モードになります

2. 面積（形状）入力

AUTOモードでは、四角形入力のみに対応しています

入力したい面積（四角形）の対角の2点（読み取り点）を指定します
（指定した2点の間に面積があれば面積になります）

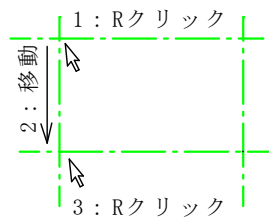


（三角形の面積アイテムの入力は、行えません
面積アイテム入力コマンドで行ってください）

3. 耐力壁（それぞれの軸方向のみ対応）

入力したい耐力壁の両端の2点（読み取り点）を指定します。

※壁の強さなどは、すべて不明になりますが、後で簡単に編集可能です
（指定した2点の間に長さがあり、面積が0で耐力壁になります）



（軸方向以外の向きの壁の入力は、
1. 耐力壁入力コマンドで行う
2. 一度軸方向に、作成し、”端点移動”で、
再配置する
等の方法で入力してください）

4. 通し柱記号

入力したい通し柱の位置で、面積0、長さ0になるように2点を入力します
（注：1点入力後一度マウスを移動し再び同じポイントでクリック）

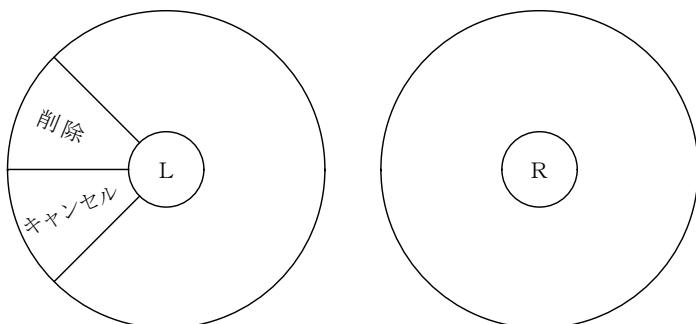
アイテム上でのクロックメニュー操作でアイテムの削除、移動等が行えます

詳細は、それぞれのコマンドの項目を参照

4.2 通り芯入力モード



このモードで使用可能なプチクロックメニュー



機能説明

通り芯を入力できます

通し柱アイテムは、すべての階に表示されます。
Wee互換モードのときは、利用できません

基本操作説明

step 1. 座標軸または、通り芯アイテム上で、クリック

(マウス Lボタン: 間隔入力ダイアログが開きます)

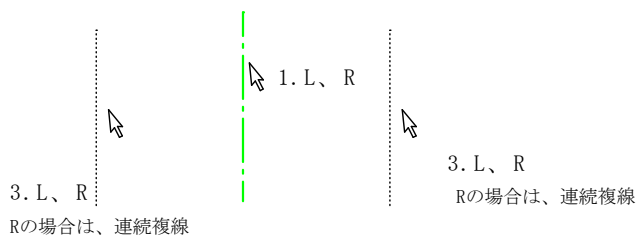
(マウス Rボタン: 前回の間隔で通り芯を描画でき、step 3へ移ります)

step 2. 複線ダイアログで間隔を入力してください

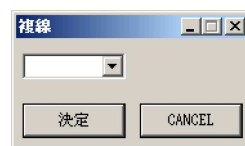
step 3. 基準線から指定の間隔の補助線が表示され、必要な位置でクリックすれば、通り芯を作成できます

(マウス Lボタン: 複線終了 step 1へ移ります)

(マウス Rボタン: 前回の間隔で通り芯を描画でき、step 3へ移ります)

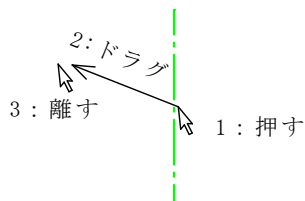


2. 間隔入力



編集機能

クロックメニュー操作(アイテム削除)



1. Lボタンを通り芯アイテムの上で押す

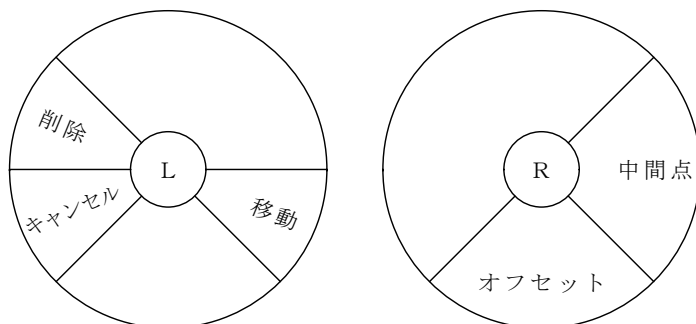
2. 押したまま10時方向にドラグ

3. "削除"と表示されたらLボタンを離す

4.3 面積入力モード



このモードで使用可能なプチクロックメニュー

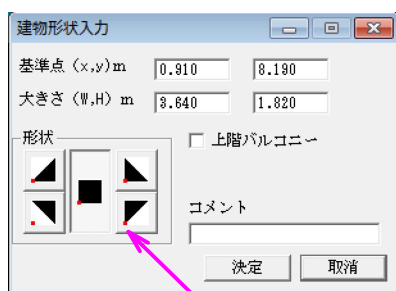


機能説明

建物の面積を（形状）入力します
入力は、建物の形状を
四角形と直角三角形に分解して行います

基本操作説明

面積入力モードに入ると次のダイアログが開きます



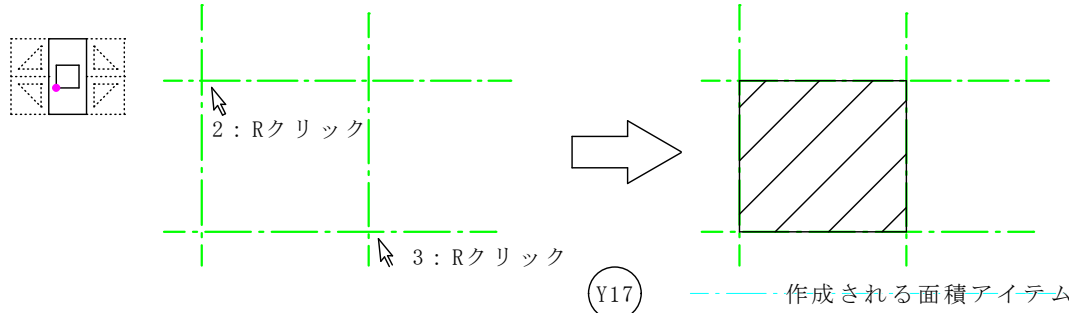
赤い点は、原点を示しています

step 1. 入力する形状を決めます

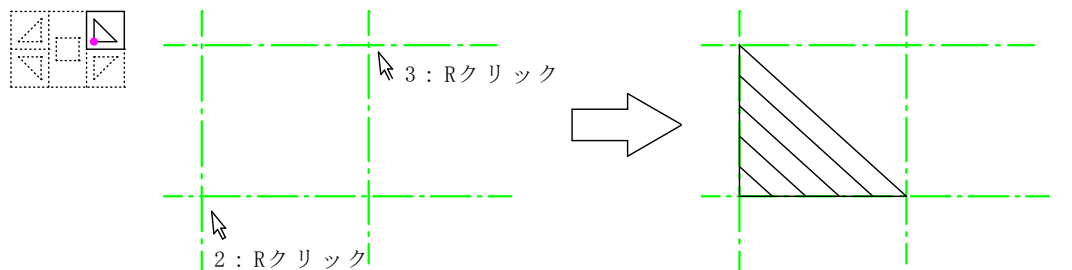
step 2. 対角の原点（読み取り点）を指定します
（マウス R ボタン： 読み取り点指示）
（2点間中心、オフセット使用可能です）

step 3. 対角の点（読み取り点）を指定すると
面積のアイテムを作成できます
（マウス R ボタン： 読み取り点指示）
（2点間中心、オフセット使用可能です）

1. 形状が四角形の入力の場合



2. 形状が三角形の場合

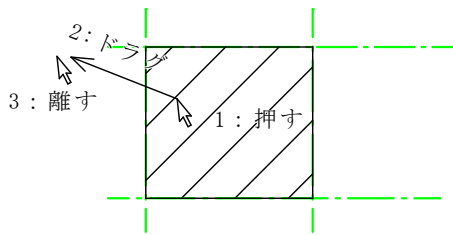


プチクロックメニュー編集機能（面積アイテム入力時）



アイテム削除

アイテムを削除します



1. Lボタンを面積アイテムの上で押す

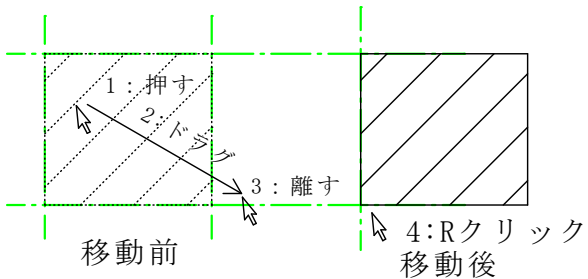
2. 押したまま10時方向にドラッグ

3. ”削除”と表示されたらLボタンを離す



アイテム移動

アイテムを移動します



1. Lボタンを面積アイテムの上で押す

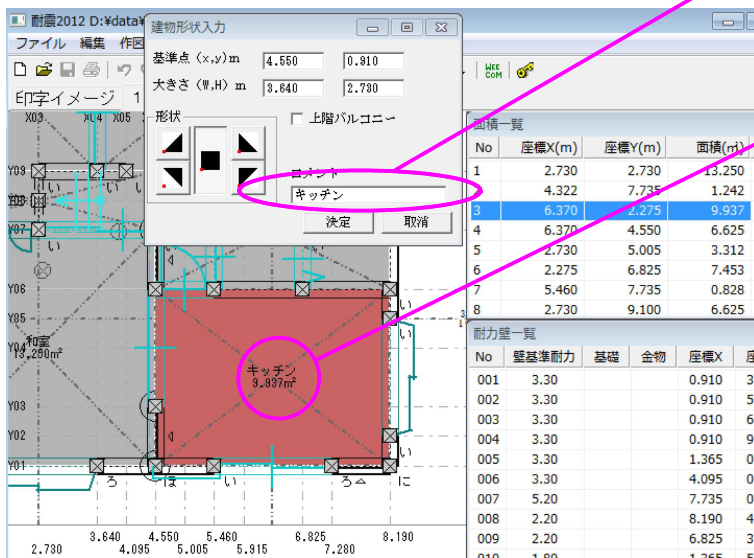
2. 押したまま4時方向にドラッグ

3. ”移動”と表示されたらLボタンを離す

4. 移動先の原点をRクリックで移動完了
(2点間中心、オフセット使用可能です)

1. コメント欄に文字を入力すると、

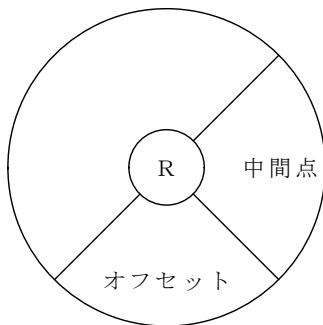
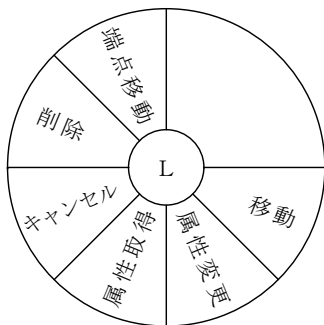
2. 図面にコメントと面積が表示されます



4.4 耐力壁入力モード



このモードで使用可能なプッシュメニュー



機能説明

耐力壁を入力します

建具や階段の図形を表示できます

基本操作説明

面積入力モードに入ると次のダイアログが開きます（通常モード）

ここをクリックすると材料のリストが現れます

その他（別添仕様）を選択すると
その他部材の耐力設定が出来ます

step 1. 壁強さ倍率を設定します

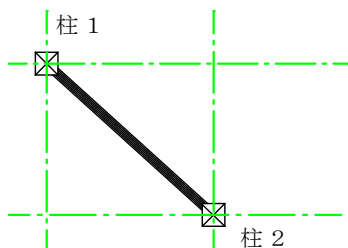
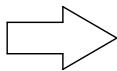
リストBOXより壁の材料を選択し壁の強さを設定します

step 2. 耐力壁の端点（読み取り点）を指定します

（マウス R ボタン： 読み取り点指示）2点間中心、オフセット使用可能です

step 3. 耐力壁のもう一方の端点を指定すると、耐力壁アイテムが作成できます

（マウス R ボタン： 読み取り点指示）2点間中心、オフセット使用可能です



作成される耐力壁アイテム

線の太さで壁強さ倍率を表現しています

壁設定ダイアログBOX詳細

1

2

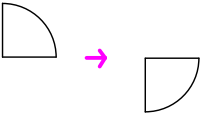
3

4

5

6

開き戸などの開口方向を変更できます



裏表交換
表面材の裏と表を入れ替えます

補強無し
補強設計時、壁の状態を診断時の状態に戻せます

始点と終点を交換できます
開戸等の吊り元の位置を変えたり文字の向きを変えます

基礎の仕様
標準と違う場合
ここで入力できます

接合金物の仕様
標準と違う場合
ここで入力できます

筋交いの向きが入力できます
(図面表示やN値計算に使用)

壁設定 変更 1階-019

表面材	36 2.20 [0.4] モルタル塗り壁 (きずり下地)	2.20	
芯材(筋違等)	1 不明	0.00	
芯材(土壁等)	0 無し	0.00	
表面材	4 2.80 [0.4] 土塗り壁 塗厚50mm以上 70mm未満	2.80	

壁全長 = 0.900 Lx = 0.000 Ly = 0.900(m)
 Pfix = (5.00 × 0.000 + 0.000) × 0.500 = 0.000 (kN)
 Pfix = (5.00 × 0.900 + 0.000) × 0.500 = 2.250 (kN)

開口部仕様

☒ 無開口(耐力壁)
☐ 腰壁

☐ 窓型(H1.2m未満)
☐ 窓型(H1.2m以上)

☐ 掃出(垂壁360以上)
☐ 掃出(垂壁360未満)

☐ 裏表反転描画
 取付高(mm)
開口高(mm)

コメント
階高 = 2950(mm)

柱1 状態

角柱

柱1寸法(mm)

樹種 不明

☒ 劣化無し
☐ 部分劣化
☐ 著しい劣化
☐ 補強部材

壁 状態

☒ 劣化無し
☐ 部分劣化
☐ 著しい劣化
☐ 補強部材

柱2 状態

角柱

柱2寸法(mm)

樹種 不明

☒ 劣化無し
☐ 部分劣化
☐ 著しい劣化
☐ 補強部材

基礎仕様

☒ 建物概要のまま

☐ 基礎Ⅰ
☐ 基礎Ⅱ
☐ 基礎Ⅲ

接合金物仕様

☒ 建物概要のまま

☐ 接合金物Ⅰ
☐ 接合金物Ⅱ
☐ 接合金物Ⅲ
☐ 接合金物Ⅳ

筋違方向

☒ 筋違無し / 方向不明

☐ 片筋違(柱1が上)
☐ 片筋違(柱2が上)
☐ 両筋違

開口部の仕様が入力できます
精密計算時に使用します

掃き出し開口にチェックがあると
建具記号に掃出開口記号が入ります




掃出開口記号

建具や階段などの表示する図形を選択できます
基本的に耐力が0の壁に使用します

コメントが入力できます
出力レポート第6面の壁一覧に表示されます

☐ 補強部材
Wee出力時補強部材として出力できます 部材の表示色が変わります
補強設計時は自動でチェックされます

壁の劣化状態を入力できます(精密計算時に使用)

柱の有無を記入できます
(精密診断方法2のために柱の樹種や太さを入力できます)

その他部材設定ダイアログBOX詳細

その他部材設定

区分
☒ 表面材 ☐ 芯材(筋違等) ☐ 芯材(土壁等) ☐ ダンパー

部材名(全角25文字) 短縮部材名(全角12文字)

その他(別添仕様) その他(別添仕様)

基準耐力 (kN/m)	基準剛性 (kN/rad/m)	減衰定数 h	保有耐力 (kN/m)	Ds
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

特定変形時耐力(kN/m)		変形角(mrad)									
1	2	3	5	8	10	15	20	30	40	60	
		(1/120)		(1/80)				(1/30)		(1/15)	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

書換 追加 削除

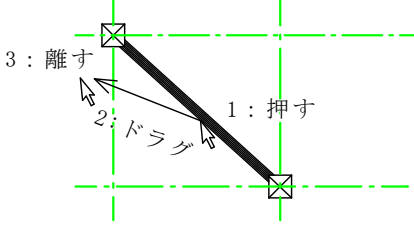
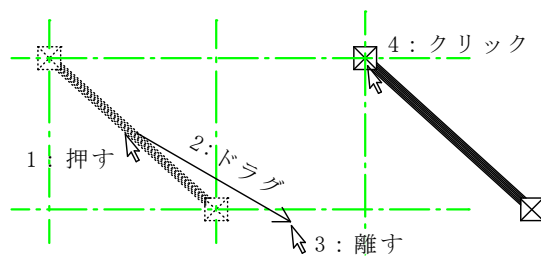
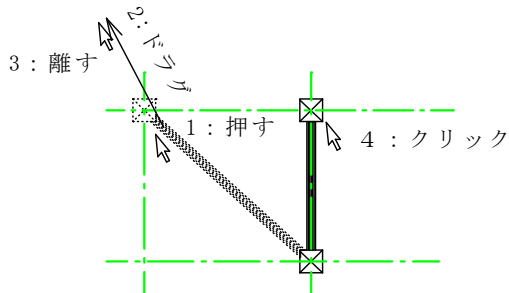
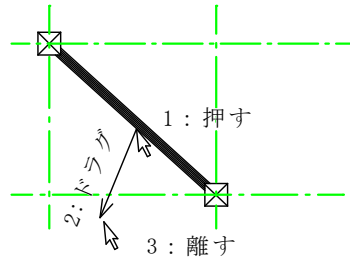
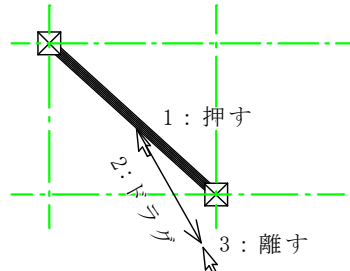
壁基準耐力	剛性	名称
-------	----	----

OK Cancel

名前を入力出来ます

耐力を入力できます
グレー表示部分は、未対応

その他部材の一覧が表示されます

プチクロックメニュー編集機能（AUTOモード・耐力壁アイテム入力時）		
	アイテム削除	アイテムを削除します
		1.Lボタンを耐力壁アイテムの上で押す 2.押したまま10時方向にドラグ 3.”削除”と表示されたらLボタンを離す
	アイテム移動	アイテムを移動します
		1.Lボタンを耐力壁アイテムの上で押す 2.押したまま4時方向にドラグ 3.”移動”と表示されたらLボタンを離す 4.移動先の原点をRクリックで移動完了 (2点間中心、オフセット使用可能です)
	端点移動	耐力壁アイテムの片方の端点を別の場所に移動します 耐力壁を伸ばしたり、縮めたり、斜めの壁に変形できます
		1.Lボタンを耐力壁アイテムの移動したい端点付近で押す。 2.押したまま11時方向にドラグ 3.”端点移動”と表示されたらLボタンを離す 4.移動先の原点をRクリックで移動完了 (2点間中心、オフセット使用可能です)
	属性取得	耐力壁の壁強さ倍率などのデータを読み取ります。
		1.Lボタンを耐力壁アイテムの上で押す 2.押したまま7時方向にドラグ 3.”属性取得”と表示されたらLボタンを離す
	属性変更	属性取得で読み取ったデータを別の耐力壁にコピーします (この操作の前には、属性取得の操作が必要です)
		1.Lボタンを耐力壁アイテムの上で押す 2.押したまま5時方向にドラグ 3.”属性変更”と表示されたらLボタンを離す

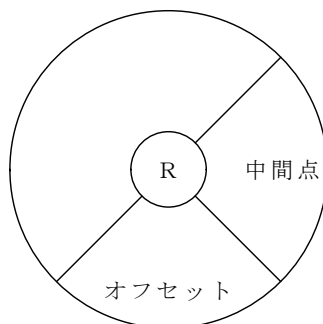
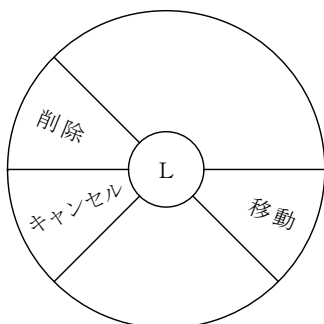
表示記号一覧（開口部形状等）

名前	記号	名前	記号
無し（腰壁）		シャッター	
非耐力壁		階段（直上り）	
引違い		階段（直下り）	
引違い（戸袋）→		階段（曲上り）	
3枚引		階段（曲下り）	
3枚引（戸袋）→		方位	
4枚引			
4枚引（戸袋）→			
1本引（開口）→			
アウターセット引戸（開口）→			
2本引（開口）→			
引分け			
アウターセット引分			
台形出窓			
FIX、ジャロジー			
片開扉（吊元）→			
親子扉（親吊元）→			
両開扉			
折戸 1			
折戸 2			
折戸 4			

4.5 通し柱入力モード



このモードで使用可能なプチクロックメニュー



機能説明

通し柱

通し柱の記号を記入できます

通し柱アイテムは、すべての階に表示されます。

基本操作説明（通し柱）

通し柱コマンドに入り、読み取り点を右クリックすると通し柱アイテムを作成できます

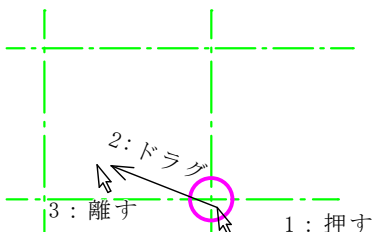
- step 1. 通し柱の位置（読み取り点）をクリックすると、通し柱アイテムが作成されます
 （マウス R ボタン： 読み取り点指示）
 2点間中心、オフセット使用可能です

プチクロックメニュー編集機能（通し柱アイテム入力時）



アイテム削除

アイテムを削除します

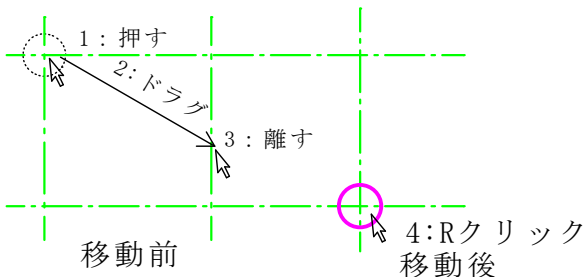


1. Lボタンをアイテムの上で押す
2. 押したまま10時方向にドラグ
3. "削除" と表示されたらLボタンを離す



アイテム移動

アイテムを移動します

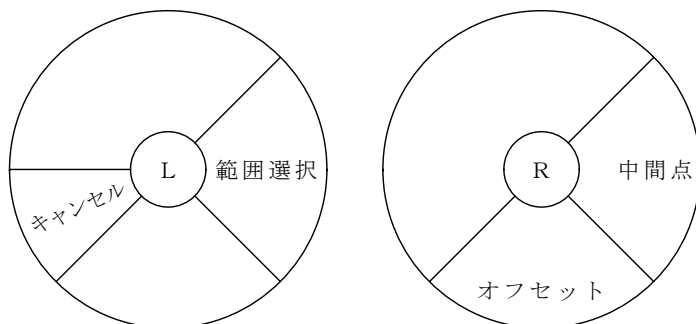


1. Lボタンをアイテムの上で押す
2. 押したまま4時方向にドラグ
3. "移動" と表示されたらLボタンを離す
4. 移動先の原点をRクリックで移動完了
 （2点間中心、オフセット使用可能です）

4.6 削除モード



このモードで使用可能なプチクロックメニュー



機能説明

アイテムを削除できます。
範囲選択による削除も可能

基本操作説明（削除）

削除コマンドに入り、アイテムを左クリックするとアイテムを削除できます

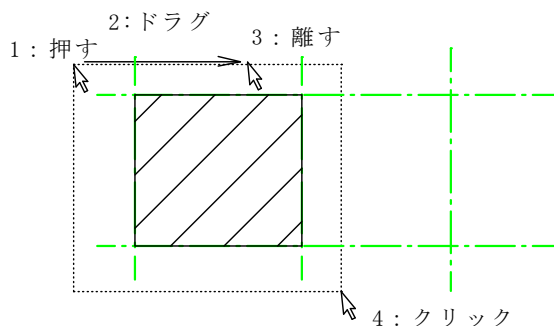
step 1. アイテムの上で左クリックすると、そのアイテムが削除されます

プチクロックメニュー編集機能（削除、移動モード時）



範囲選択

範囲選択モードに入ります

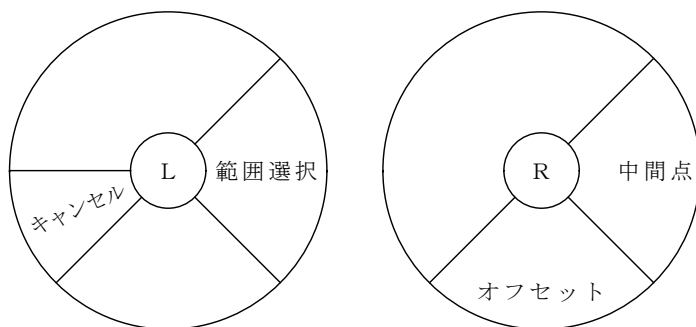


1. Lボタンを範囲の始点で押す
2. 押したまま3時方向にドラグ
3. ”範囲選択”と表示されたらLボタンを離す
4. 範囲の終点でクリック（範囲選択操作の Step2）

4.7 移動モード



このモードで使用可能なプチクロックメニュー



機能説明

複数のアイテムを選択し、位置を変更できます
※ 通り芯は移動できません

基本操作説明（移動）

移動コマンドに入ると、すぐに範囲選択モードになっています。

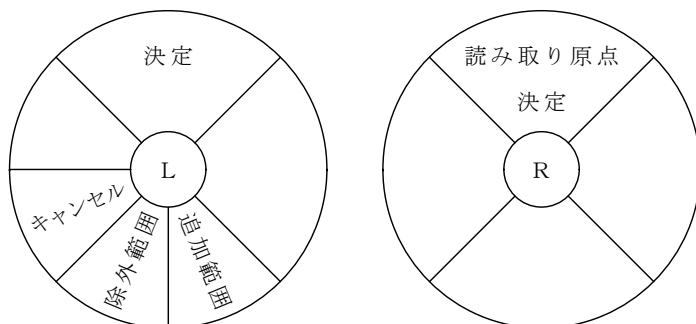
step 1. 移送するアイテムを選択し、原点を決めます。（削除コマンドのページの範囲選択参照）

step 2. 原点が決まったら、移動先を右クリックで決定すると移動します。

2点間中心、オフセット使用可能です

4.8 範囲選択モード

このモードで使用可能なプチクロックメニュー



機能説明

複数のアイテムを選択し、位置を変更できます
※ 通り芯は移動できません

範囲選択基本操作説明

step 1. 範囲選択の始点を左ボタンで指定します

step 2. 矩形が表示されるので選択したいアイテムを囲むようにして、範囲の終点を指定してください

step 3. 選択されたアイテムの色が変わります、範囲がよければ、0時方向ドラッグで決定してください
(左0時方向ドラッグ：削除コマンド等、原点位置が不要な場合など)
(右0時方向ドラッグ：読み取り点を原点として、範囲を確定する)

アイテムを追加、削除したい場合

1. 個別アイテムをひとつずつ追加する場合

アイテムを左クリックすると、選択・非選択が切り替わります。

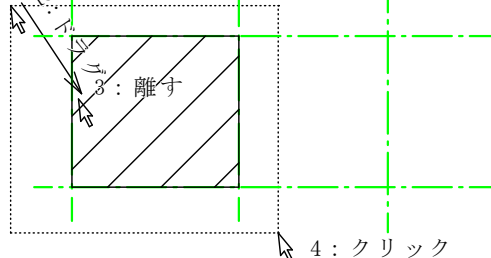
プチクロックメニュー編集機能（範囲選択モード時）



追加範囲選択

範囲を指定して複数のアイテムを追加選択できます

1: 押す



1. Lボタンを範囲の始点で押す

2. 押したまま5時方向にドラッグ

3. ”追加範囲”と表示されたらLボタンを離す

4. 範囲の終点でクリック

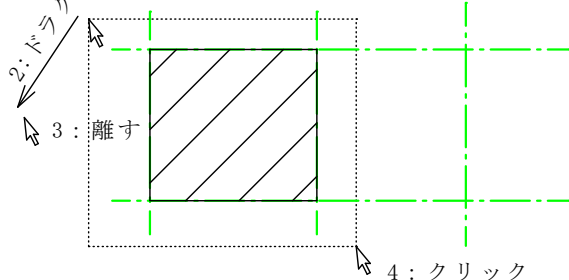
範囲内のアイテムが追加選択されます



除外範囲選択

すでに選択されているアイテムを範囲を指定して選択を解除できます

1: 押す



1. Lボタンを範囲の始点で押す

2. 押したまま7時方向にドラッグ

3. ”除外範囲”と表示されたらLボタンを離す

4. 範囲の終点でクリック

1
2
3
4
5
6

5：他のソフトとの連携

1

2

3

4

5

6

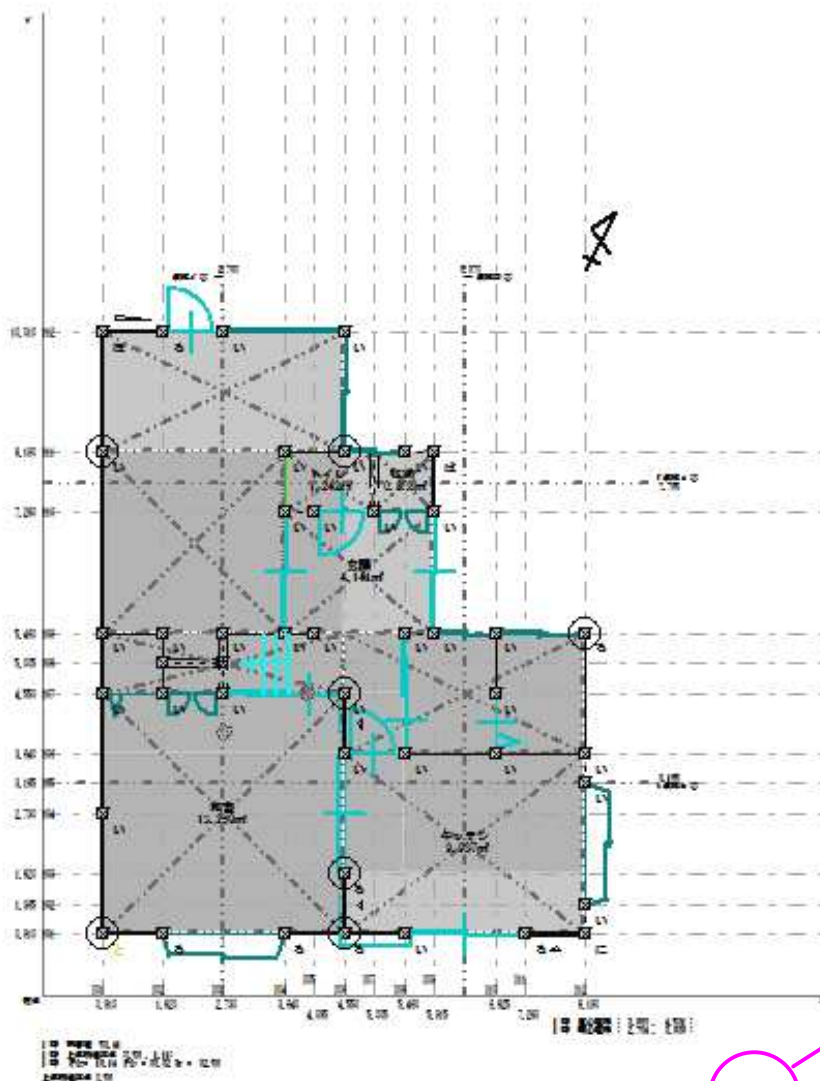
5.1 JWCADに図面出力

平面図の画面で読み取り点以外（端点や交点でない場所）で右クリックをすると、以下のメニューが出ます

平面図座標ファイル出力
平面図 copy
平面図 copy (詳細)
キャンセル

JWCADの座標ファイルとして図面を出力します。（P20 参照）
（ファイル名を決めて保存してください）

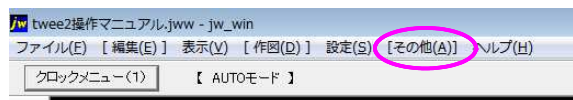
クリップボードにJW形式のデータをコピーします（1/100程度用 P21 参照）
// 詳細なデータをコピーします（1/50程度用 P22 参照）



1. 読み取り点以外で
右クリック

JWW側の操作

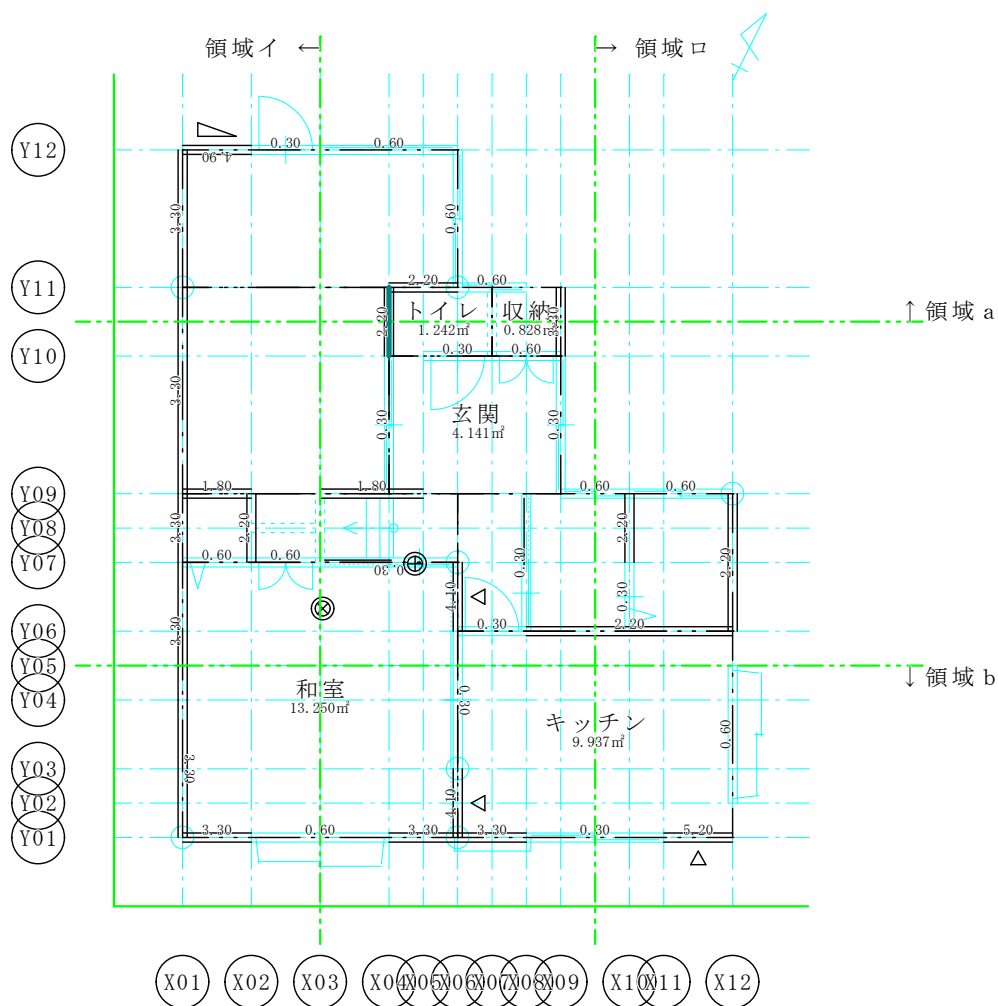
1：平面図座標ファイル出力の場合



その他 -> 座標ファイル

先に保存した座標ファイル名を指定し、ファイル読み込み
以下のような図面が読み込めます

1/100程度の縮尺のレイアに貼り付けてください

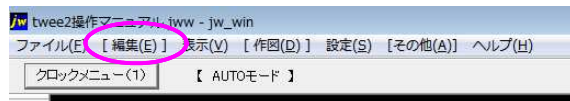


縮尺 1/100

JWW側の操作

2：平面copyの場合

※USER 認証しないと使用できません

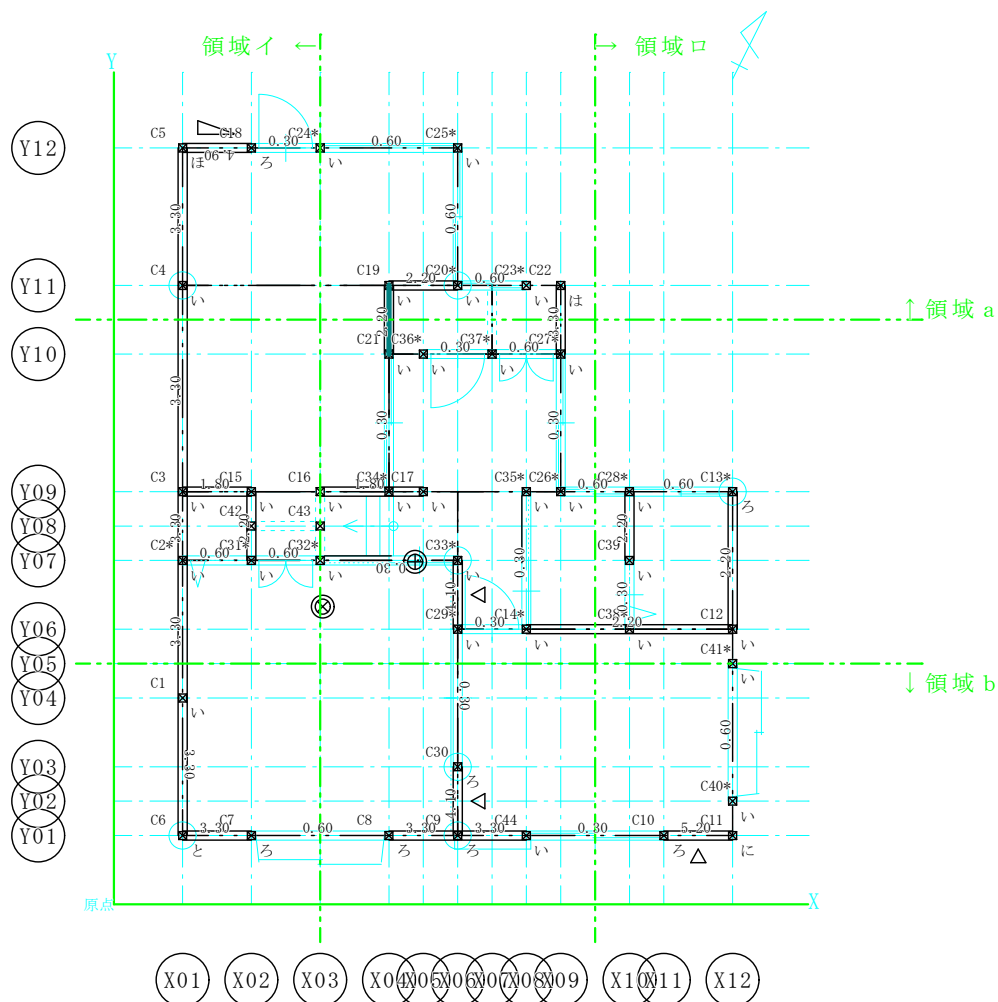


編集 -> 貼り付け

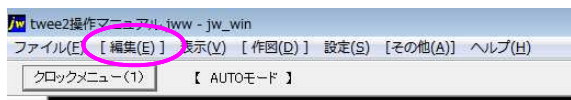
で、以下の様に貼り付けられます

壁の耐力の合計値が記入されています

1/100程度の縮尺のレイアに貼り付けてください

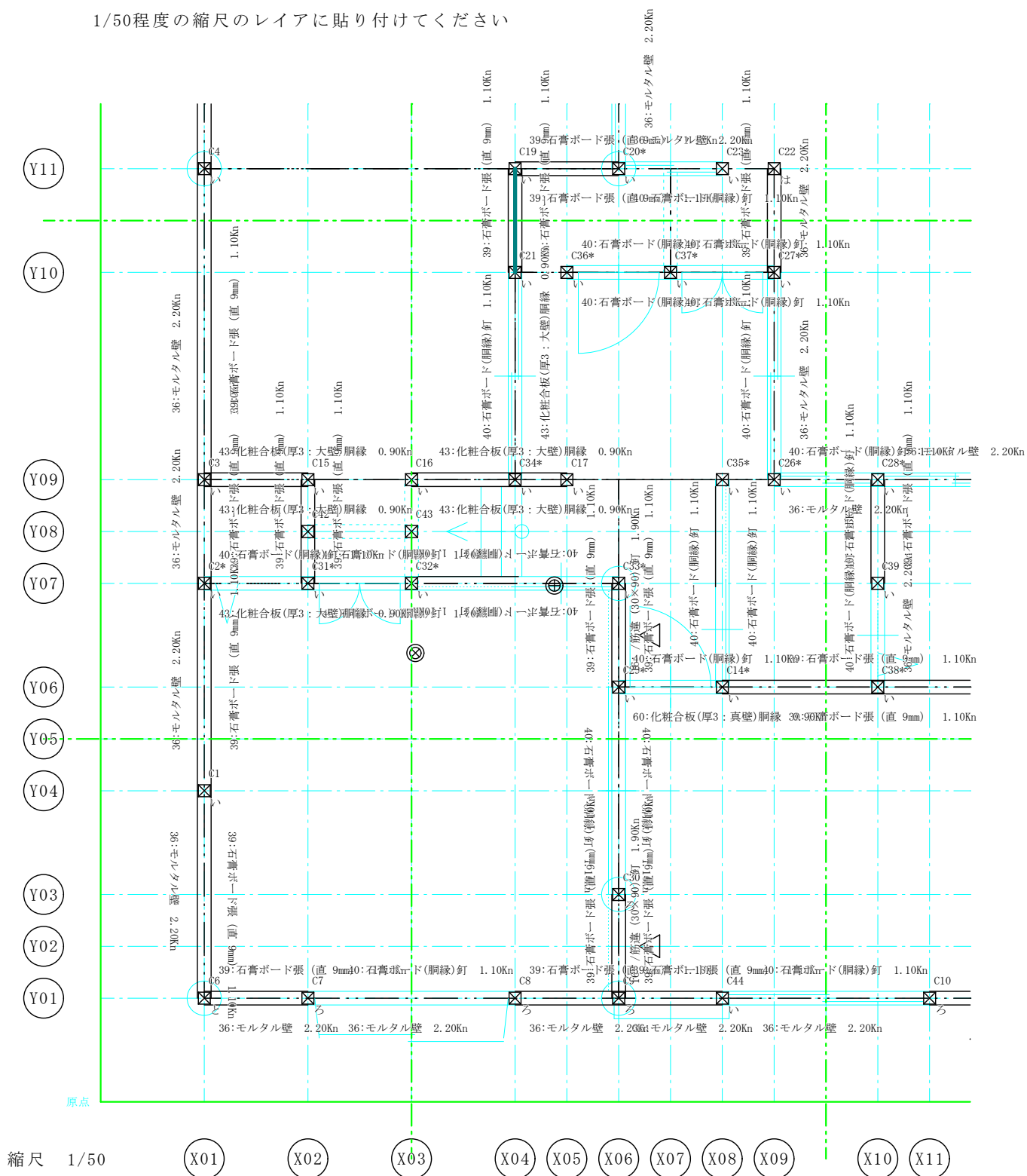


縮尺 1/100



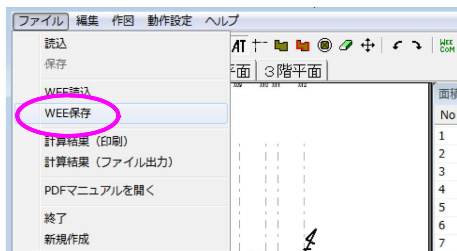
編集 -> 貼り付け で、以下の様に貼り付けられます
壁の耐力の詳細が記入されます

1/50程度の縮尺のレイアに貼り付けてください

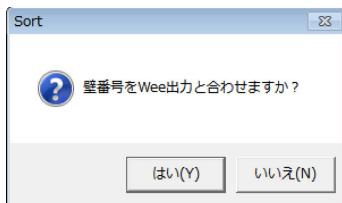


5.2 Weeファイル出力

1. ファイル->WEE保存を選択



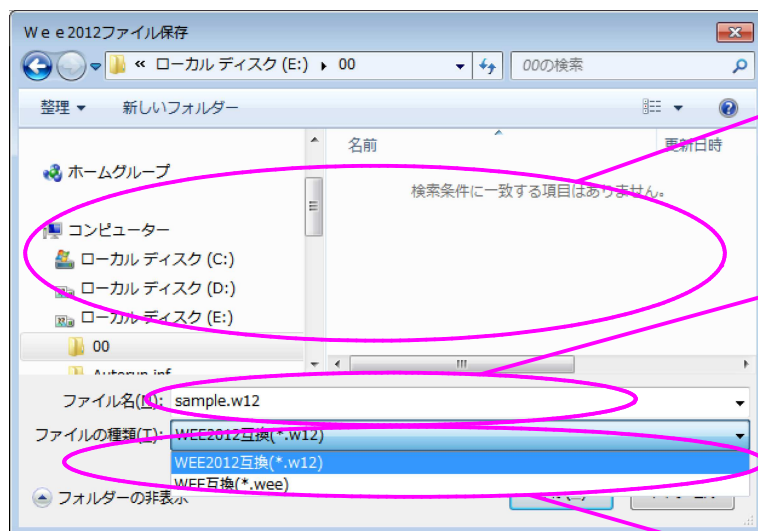
2. Weeに出力される壁番号とTweeの壁番号をそろえます



通常Tweeの壁番号は、入力順になっていますが、Wee出力時にWee出力しない壁（耐力の無い壁等）が含まれているとTweeとWeeで壁の番号がずれる場合があります。

そのまま使用するとTweeで計算したN値計算等がWeeの壁番号とずれるので使用できなくなります

3. 保存場所、ファイル名、Weeのファイル形式を決めて保存



ファイルの保存場所選択

左の例では

Eドライブの”00”のフォルダーに保存

ファイル名設定

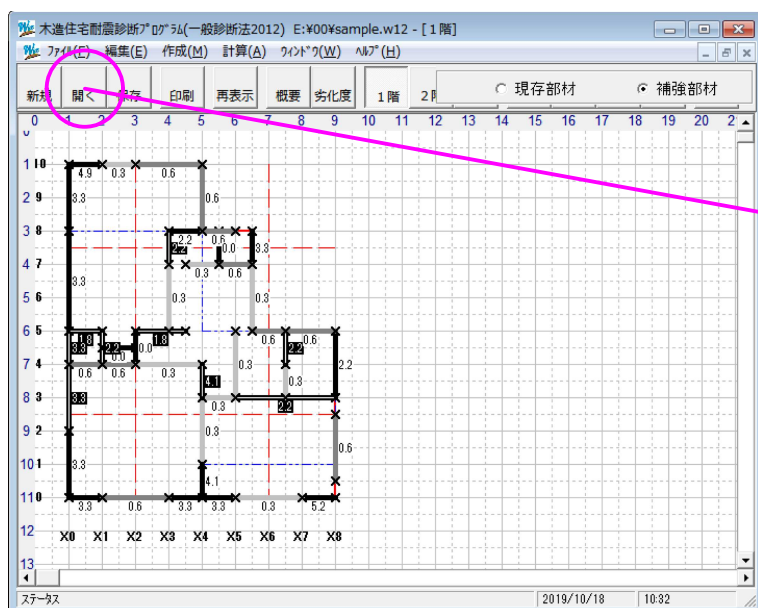
左の例では

”sample.w12”に設定

ファイルの種類はWee2012形式 .w12 と旧Wee(2004年版) .wee が選択できます左の例では

Wee2012形式に設定しています

4. Weeで対象のファイルを開く



Weeを起動し

開くコマンドで

先ほど保存したファイルを開きます

データをチェックして問題なければ計算して印刷してください

6 : コマンドリファレンス

1

2

3

4

5

6

6.1 新規コマンド



機能説明

すべてのアイテムを削除し新たなデータを入力できる状態にします。

6.2 ファイルを開くコマンド



機能説明

Wee、w12、Twe（Tweeの独自形式）Tw2（Twee2の独自形式）を開くことができます。

6.3 ファイルを保存コマンド

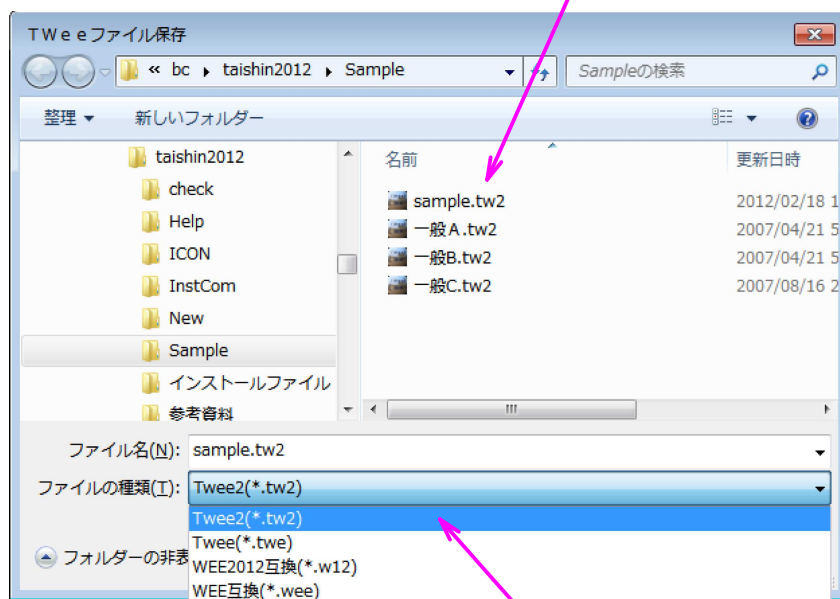


機能説明

保存ダイアログが開き、データを保存できます。

ここで、ファイルの種類を選択して保存してください

すでに保存されているファイルの一覧が現れます



保存するファイルの種類を変更できます

ファイルの種類	説明
Twee2(*.tw2)	Twee2の標準の保存形式です
Twee(*.twe)	旧Twee の形式です
WEE2012互換(*.w12)	日本防災協会のWee2012版の互換形式です
WEE互換(*.wee)	日本防災協会の 旧Wee 2004年版の互換形式です

Wee のバージョンが古い人は、日本建築防災協会のHPでバージョンアップファイルが公開されております

<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/>

ホーム > 耐震支援ポータルサイト > 耐震診断・耐震改修とは？

> 技術的内容 > 一般診断法による診断プログラム（Wee2012）

バージョンによって計算結果が違うのでバージョンアップをお勧めします

機能説明

この項目では、計算に重要なデータを入力します。必要に応じて編集しながら使用してください
 Qrの計算モードや、配置低減の計算方法の設定もここでを行います
 すべての項目の入力が終わりましたら[決定]ボタンを押してください

「ON」 Wee互換モード
 Wee互換 「通り番号互換」出力したものと通り番号をあわせませす (WeeにN値計算書などを添付する場合に使用)
 「OFF」

図面の縮尺、ページサイズを設定します。

診断方法を入力します
 (※Wee互換モードでは一般診断のみ入力可能)

診断方法による計算方法のオプション
 診断方法に合わせて変化します

N値計算

見付面積(m ²)	X方向	計	Y方向	計
3F	0.000		0.000	
2F	0.000	0.000	0.000	0.000
1F	0.000	0.000	0.000	0.000

N値計算

☐ 両端の柱が”い”の壁を金物Ⅰにする

N値を計算し、壁の両端の柱に引き抜け力が働かない”い”の場合、
 ほぼ差し程度でも金物Ⅰを満足するので、その壁を金物Ⅰとして計算します。

☐ 基礎の低減を評価する

N値を計算の元の壁倍率の算定にあたり、壁強さ倍率が基礎により低減されている場合は、
 低減された壁強さ倍率(金物Ⅰ)を使用して、N値計算を行う。

※WEE互換モード使用時の注意事項

1. 通り芯は、モジュール寸法に固定され変更できなくなります
2. 必要耐力Qrを精算法で求められなくなります。 (※2階が小さい建物は、過剰設計になります)
3. 壁配置低減Eを偏心率から求めることができなくなります
4. 地域係数に1.2が入力できなくなります。

これらの制約は、Weeの性能によるものです。



機能説明

印刷イメージの画面に表示される計算結果を印刷します。

印刷イメージ画面

このタブをクリックすることで診断結果の印刷イメージの画面が表示され、確認することができます

耐震診断報告書 (木造建築物)

一発診断 方格1 平成 年 月 日

【申込者】
住所 東京都目黒区
氏名

耐震診断員
氏名

耐震診断の依頼を受けた建物について診断した結果、下記のとおりですので報告表します。
なお、この報告書は調査時点での診断状況であり、その後の経年劣化等に対しては十分な維持管理をお願いします。

建物名称	C邸
所在地	東京都目黒区

【上部構造】

階	方向	上部構造振動点	判定
2階	X	4.35	安全です
	Y	3.09	安全です
3階	X	2.04	安全です
	Y	1.53	安全です
1階	X	1.45	一応耐震しない
	Y	1.50	安全です

上部構造振動点 1.45

総合判定	判定	今後の対策
1.5以上	安全です	定期的な点検が望ましいです
1.0以上1.5未満	一応耐震しない	より安全にするための増強が望ましいです
0.7以上1.0未満	損壊する可能性がある	耐震補強が必要です
0.7未満	損壊する可能性が高い	緊急に耐震補強が必要です

総合的所見

用紙サイズ 210.0mm×297.0mm 1 / 15 表示倍率 62%

印刷イメージ表示画面

[Page Up] : キー前のページを表示します。

[Page Down] : 次のページを表示します

マウスのホイールを回転させるとページを送ることができます

※Wee形式で保存した後でこの操作を行うと、最終ページにその他耐力の一覧のページが追加されます

機能説明

この項目では、建物名称や診断士の情報など計算結果に影響を与えない項目の入力を行います
すべての項目の入力が終わりましたら[決定]ボタンを押してください

必要な場合、受付番号を入力してください

「診断士情報入力」から情報を入力し
コンボBOXで選択してください

診断士情報入力により10人分まで登録できます

調査した日時を文字で入力してください

申請者の住所、氏名を入力してください

建築場所が申請者の住所と異なる場合
○その他にチェックを入れて
建築場所を入力してください

建物の名所を入力してください

年号と年を選択してください
築10年以上たっている場合は、
☐築10年以上 のチェックBOXにチェックを入れてください

診断士情報入力：10人分の診断士のデータを登録できます

コメント欄：一覧表示のとき名前の後ろに表示されます

名前：診断士の名前を入力してください
名前や所属先の所在地を入力後

[書換]：一覧表示画面で選択されているデータを書き換えます

[追加]：空いている場所にデータを登録します

[削除]：一覧表示画面で選択されているデータを削除します

一覧表示画面

機能説明

この項目では、建物重さ等の建物仕様に関する項目を入力します
すべての項目の入力が終わりましたら[決定]ボタンを押してください

階数：平面から自動計算します
主要な柱の径を入力します
柱の径を指定するとJWW図面出力時に描画される柱の径が変わります
また、図面で個別に柱径、形状を設定できます

建物仕様を入力します

一般事項設定入力

名称等 建物仕様等 計算方法その他設定

主要な柱の径(mm) ☐ 80 ☒ 105 ☐ 120 ☐ 120mm未満 ☐ 120以上 モジュール寸法(mm) 910.0

建物仕様
☐ 軽い建物 : 石綿スレート、ラスモルタル、ボード壁
☒ 重い建物 : 横瓦葺き、土壁塗り、ボード壁
☐ 非常に重い建物 : 土瓦葺き、土壁塗り (内外壁)
 屋根仕様 横瓦葺等 壁仕様 52mm外壁 + ボード内壁
☐ 1階が鉄骨造または、鉄筋コンクリート造
 軒の出 450mm以下

地域係数 ☐ 1.2 ☒ 1.0 ☐ 0.9 ☐ 0.8 ☐ 0.7 ☐ その他 1.0 積雪深さ(m) 1.00

軟弱地盤割増し係数 ☐ 1.0良い(1種) ☒ 1.0普通(2種) ☐ 1.5軟弱(3種)

床仕様
☐ 床Ⅰ：合板 床倍率1.00
☒ 床Ⅱ：火打ち+荒板 床倍率0.63
☐ 床Ⅲ：火打ちなし 床倍率0.39

高さ設定(mm)
 2F桁天-3F桁天 0 2F桁天-3FL 0
 1F桁天-2F桁天 2350 1F桁天-2FL 70
 土台天-1F桁天 3000 土台天-1FL 70
 GL-土台天 530 基礎天-土台天 130

基礎形状
☐ 基礎Ⅰ：健全な鉄筋コンクリート布基礎またはべた基礎
☒ 基礎Ⅱ：ひび割れの有る鉄筋コンクリート布基礎又はべた基礎、
☐ 基礎Ⅲ：ひび割れの有る無筋コンクリート布基礎、玉石、その他基礎

標準の柱接合金物
☐ 金物Ⅰ：平成12年建告1480号に適合する仕様
☐ 金物Ⅱ：羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓
☐ 金物Ⅲ：はそ差し、釘打ち、かすがい等 (構面の両端が通し柱の場合)
☒ 金物Ⅳ：はそ差し、釘打ち、かすがい等

OK キャンセル 適用(A)

モジュール寸法をmm単位で入力できます
(WEE互換入力の場合は、平面入力の前に必ず設定してください)

積雪深さ m単位で入力してください

地域係数：建築基準法の地域係数を入力してください
(1.2は、静岡などは、通常よりも20%UPしているので追加しています)

地盤の状態を入力してください

建物の床の仕様を入力します

建物の基礎の仕様を入力します

建物の金物の仕様を入力します

機能説明

この項目では、計算に重要なデータを入力します。必要に応じて編集しながら使用してください
 Qrの計算モードや、配置低減の計算方法の設定もここでを行います
 すべての項目の入力が終わりましたら[決定]ボタンを押してください

「ON」 Wee互換モード
 Wee互換 「通り番号互換」出力したものと通り番号をあわせませす (WeeにN値計算書などを添付する場合に使用)
 「OFF」

図面の縮尺、ページサイズを設定します。

診断方法を入力します

(※Wee互換モードでは一般診断のみ入力可能)

診断方法による計算方法のオプション
 診断方法に合わせて変化します

N値計算

☐ 両端の柱が”い”の壁を金物Ⅰにする

N値を計算し、壁の両端の柱に引き抜け力が働かない”い”の場合、
 ほぼ差し程度でも金物Ⅰを満足するので、その壁を金物Ⅰとして計算します。

☐ 基礎の低減を評価する

N値を計算の元の壁倍率の算定にあたり、壁強さ倍率が基礎により低減されている場合は、
 低減された壁強さ倍率(金物Ⅰ)を使用して、N値計算を行う。

※WEE互換モード使用時の注意事項

1. 通り芯は、モジュール寸法に固定され変更できなくなります
2. 必要耐力Qrを精算法で求められなくなります。 (※2階が小さい建物は、過剰設計になります)
3. 壁配置低減Eを偏心率から求めることができなくなります
4. 地域係数に1.2が入力できなくなります。

これらの制約は、Weeの性能によるものです。

機能説明

劣化入力のアイコンをクリックすると劣化度計算ダイアログが現れます。
存在部分、劣化部分それぞれのチェックBOXにチェックを記入してください

部位	材料・部品等	劣化事象	存在 点数	劣化 点数
屋根 葺き材	金属板	変退色、さび、割れ、ずれ、めくれがある	☒ 2	☒ 2
	瓦・スレート	割れ、ずれ、欠落がある	☒ 2	☒ 2
牆	牆・呼び牆	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	☐ 2	☐ 2
	縦牆	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	☐ 2	☐ 2
外壁 仕上げ	木製板、合板	水しみ痕、コケ、割れ、抜け、腐れ、腐敗がある	☐ 2	☐ 2
	空業系サイディング	コケ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	☒ 4	☒ 4
	金属系サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	☒ 4	☒ 4
	モルタル	コケ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	☐ 2	☐ 2
露出した躯体		水しみ痕、コケ、腐れ、腐敗、蟻害がある	☐ 2	☐ 2
バルコニー 手すり 壁	木製板、合板	水しみ痕、コケ、割れ、抜け、腐れ、腐敗がある	☐ 1	☐ 1
	空業系サイディング	コケ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	☐ 1	☐ 1
	金属系サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	☐ 1	☐ 1
	外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	☐ 1	☐ 1
	床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みがない	☐ 1	☐ 1
内壁	一般室 内壁、窓下	水しみ痕、はがれ、亀裂、カビがある	☒ 2	☒ 2
	浴室 タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	☐ 2	☐ 2
	タイル以外	水しみ痕、変色、亀裂、カビ、腐れ、腐敗がある	☐ 2	☐ 2
床	一般室 床面	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	☒ 2	☒ 2
	廊下 床面	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	☐ 1	☐ 1
	床下	基礎の亀裂や床下材料に腐れ、蟻害、腐敗がある	☒ 2	☒ 2
合計			存在点数 (12)	劣化点数 (8)

診断時の劣化点数 劣化度による低減係数 $D = 1 - (\text{劣化点数} / \text{存在点数}) = 0.88$ $D=0.88$
※計算結果が0.7未満のときは0.7を使用する

決定 取消

劣化点数入力

存在する項目の中で劣化が確認できるものに
チェックを入れてください

存在点数入力

その物件に存在するものをチェックしてください

(通常の住宅に存在しそうな部分は、チェック済みです。
不要なチェックは、外して使用してください)

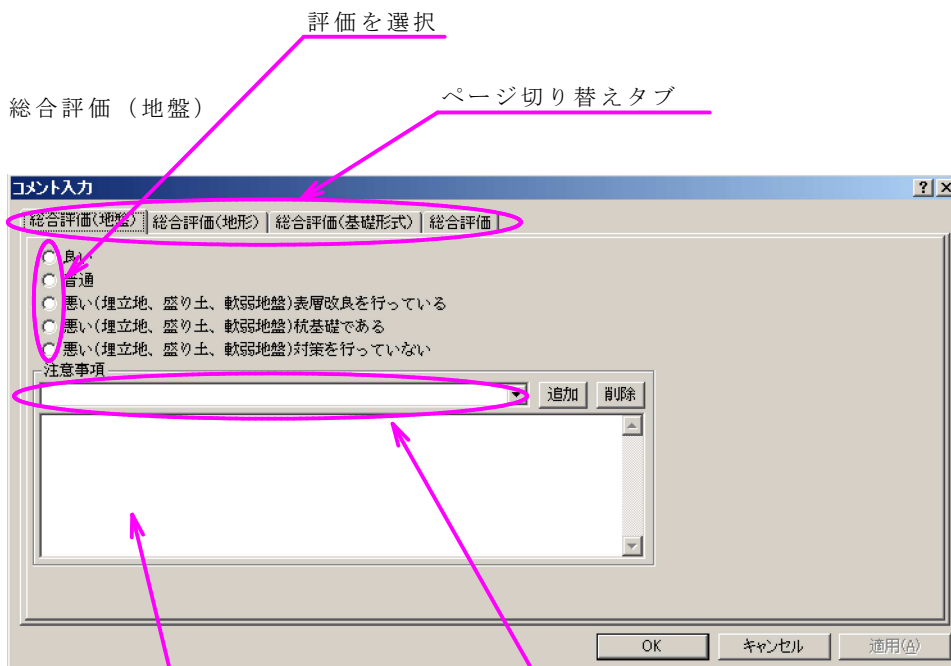
補強設計の場合、診断時の劣化点数が自動で入力される

(Wee2012は、診断時の劣化点数が、0.9以下の場合、劣化部分を直しても0.9以上にすることは出来ない)

機能説明

コメント入力のアイコンをクリックするとコメント入力用のウィンド（プロパティシート）が開きます。

総合評価（地盤）、総合評価（地形）、総合評価（基礎形状）、総合評価の5つのページがありそれぞれのページでコメント等を入力してください



コンボBOX

コメントはコンボBOXに入力し、[追加]ボタンを押すことで入力できます
また、一度追加したコメントは、コンボBOXの[▼]を押すことにより選択できます。
[追加]ボタンで、コメント欄にコピーされ、設定ファイルに保存されます
[削除]ボタンで設定ファイル上からそのコメントが削除されます。

コメント記入欄

コメント欄では、自由に編集が行えるようになっています。
コンボBOXを使用せずに直接記入することもできます

総合評価（地形） 評価を選択

コメント入力

総合評価(地盤) | **総合評価(地形)** | 総合評価(基礎形式) | 総合評価

☐ 平坦・普通
☐ 崖地・急傾斜 コンクリート擁壁
☐ 崖地・急傾斜 石積み
☐ 崖地・急傾斜 特別な対策を行っていない

注意事項

追加 削除

OK キャンセル 適用(A)

総合評価（基礎形状） 評価を選択

コメント入力

総合評価(地盤) | 総合評価(地形) | **総合評価(基礎形式)** | 総合評価

☐ 鉄筋コンクリート 健全
☐ 鉄筋コンクリート ひび割れあり
☐ 無筋コンクリート 健全
☐ 無筋コンクリート ひび割れが生じている
☐ 玉石基礎 足固めあり
☐ 玉石基礎 足固めなし
☐ その他（ブロック基礎など）

注意事項

追加 削除

OK キャンセル 適用(A)

現状の評点が表示されます。これを参考にコメントを記入して下さい

総合評価

コメント入力

総合評価(地盤) | 総合評価(地形) | 総合評価(基礎形式) | **総合評価**

一般診断: 建物仕様 非常に重い建物: 基礎Ⅱ 床Ⅱ 金物Ⅳ
階 方向 P(kN) 配置 E(偏心率) 劣化 D 保有耐 必要耐 評点 上部構造評点 0.43
2階 X 57.96 × 1.00(0.02) × 0.81 = 46.95 / 44.94 = 1.04
Y 58.48 × 1.00(0.06) × 0.81 = 45.75 / 44.94 = 1.02
1階 X 102.23 × 0.75(0.02) × 0.81 = 62.10 / 143.54 = 0.43
Y 97.28 × 1.00(0.14) × 0.81 = 78.80 / 143.54 = 0.55

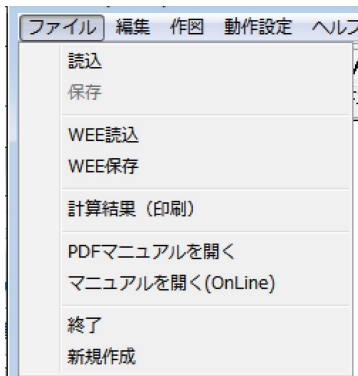
注意事項

☆■総合所見■☆
壁・バランブともに良好です。
屋根、外壁とも良好な状態ですが、雨水の侵入や、シロアリ等に注意してください。
今後、建物の十分な維持管理を行ってください。
壁は、確保されていますが、壁の配置バランスが悪いのです。
壁の配置バランスは良好ですが、全体の壁量が不足しています。
建物形状はあまり良くはありませんが、揺れによるねじれは少ないです。
伝統的軸組工法の部分を含む為、評点は低く評価されました
一部、耐震診断対象外の部分があります。
歴史の有る建物なので今後、建物の十分な維持管理を行ってください。
柱の傾斜等老朽化を防ぐ補強を行ってください。
外壁は、クラックも見られず良好な状態を保っています。
外壁を補修し、雨水の浸入を防いでください。
床下の調査を行い、傷んだ部分があれば補修を行ってください。
火打ち梁を増設して床面の水平剛性を上げてください。

追加 削除

キャンセル 適用(A)

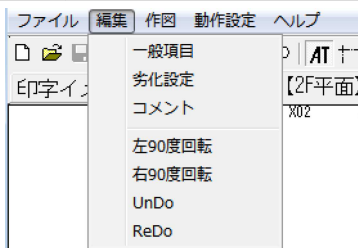
6.11 メニューバー「ファイル」



機能説明

読み込み：	Tweeのファイルを読み込む事が出来ます
WEE読み込み：	Wee形式のファイル読み込み
WEE保存：	Wee形式でデータを保存します
計算結果 (印刷)：	計算結果を印刷します
PDFマニュアルを開く：	インストールファイルに同梱されているPDFファイルを開きます
マニュアルを開く(OnLine)：	ネット上に有る最新のPDFマニュアルを開きます
終了：	Tweeを終了します
新規作成：	データを全てクリアします

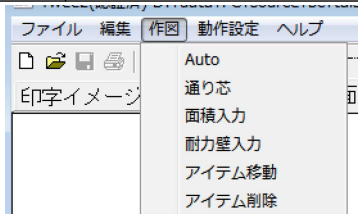
6.12 メニューバー「編集」



機能説明

一般項目：	一般項目設定ダイアログを開く
劣化設定：	劣化項目設定ダイアログを開く
コメント入力：	コメント入力ダイアログを開く
左90度回転：	全てのアイテムを回転する
右90度回転：	直前の操作を取り消しする
Undo：	取り消した操作をもう一度行う
ReDo：	

6.13 メニューバー「作図」



機能説明

入力モードをそれぞれのモードに移行する

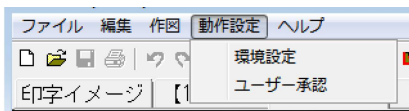
6.14 メニューバー「ヘルプ」



機能説明

オンラインヘルプ：	ネット上のHELPのホームページを表示
FaceBook：	フェイスブックのTweeページ表示
更新チェック：	ネット上に最新ファイルが無いかチェックする
ヘルプ：	ヘルプファイルを表示
About：	バージョンや連絡先などを表示

機能説明



環境設定：環境設定ダイアログ表示

壁設定ダイアログ内で表示する耐力壁を設定



診断結果印刷時に評点が1.0以下の場合に表示される概算のページ用の設定

